

議会だより

さんのへ

第191号 (令和3年12月議会号)

- P2議会・議員は何をしているの？
- P4一般質問(6議員)
- P10.....議決結果一覧
- P11..... 議案審議、臨時会報告、請願・陳情
- P12..... 議員活動レポート
- P13…研修報告、一部事務組合議会議員の紹介
- P14..... 3月議会予定・編集後記

「杉沢小学校最後の冬」

杉沢小学校最後の児童4人は、給食後の昼休み、地域の人々が作ってくれた大きなかまくらや、ソリすべり用のスロープで杉沢小最後の冬を楽しんでいます。(令和4年1月19日撮影)





議会・議員は 何をしているの？

新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちも変化を強いられましたが、どのような状況にあっても、議会や議員は町民のために活動しています。

ここでは、議会がどのような仕事をしていて、そのために議員はどんな公務を行っているのかお伝えします。

実はいろんなこと やってます

議会の仕事 & 議員の公務



公聴(町民からの相談)→担当課との話し合い

議員は、町民の困りごとや町政に対して感じていることなど、多種多様な相談を受けます。

このような相談や意見を聞き、町民の声を町政に反映させることが議員の大切な仕事のひとつです。



町民からいただいた相談や意見は、役場の担当課に町民の生の声として届けています。

また、町長らに対し、町政運営全般について質問する「一般質問」にも生かしています。



必要に応じ、担当課に町民からの声を届けています

本会議

三戸町議会では、年4回の定例会と、早急に審議すべき事案が発生した際に招集される臨時会を開催し、まちづくりに必要な条例や予算などを審議しています。

本会議は全議員が出席し、町長ら町側から議案の説明を受け、それに対して議員が質疑、討論を行い、採決します。

また定例会では、議員が町長などに対し、町の施策の状況や方針など、町政全般について質問し、回答を求める一般質問も行われます。



※一般質問の質問・答弁のやりとりは4～9ページに掲載しています。

定例会では多くの議員が質問を行います

議案についての勉強

町長が提案する条例案や予算案について、議員は「本当に町民のためになる内容か」「問題点はないか」「これまでの施策との整合性はあるか」など、さまざまな視点から議員間で議論を行っています。

あらかじめ議案についてしっかりと勉強し、認識を深めたうえで、自分の意見を持って会議に臨みます。



議員間で話し合い、議案について認識を深めます

委員会と所管事務調査

議会の中には、条例に基づく3つの常任委員会や、議会運営委員会などの委員会が設置されるほか、必要に応じて特別委員会も設置することができます。各委員会は委員長、副委員長、委員で構成され、本会議における審議の予備的審査や、各委員会が所管する専門的な事項に関する調査・研究を行っています。



各委員会が所管する事項について自主的に実施する調査です。常任委員会には

- ・総務文教常任委員会
- ・民生商工常任委員会
- ・建設農林常任委員会

の3つの委員会があり、それぞれの分野で専門的に調査・研究を行っています。

町民参加の取り組み

町民にとって身近な議会・議員であることを目指し、町民との交流会（意見交換会）やアンケート調査など、町民が参加できるような取り組みを行っています。



町民との交流会の様子



スマホで三戸町議会をチェック!

議会や議員の活動については、議会だよりのほか、議会ホームページやSNSなどでも情報発信しています。

三戸町議会
Facebook

三戸町議会
ホームページ



その他の公務と議員活動

- ・一部事務組合議会議員として、議会に出席
- ・町の各種審議会や委員会の委員として議事を代表して出席
- ・他の自治体の施策の調査や現地視察
- ・町内外の各種行事や会議への出席
- ・町への政策提言や意見の提出 など





竹原 義人 議員



Q1 三戸町高齢者福祉計画について

町の三戸町高齢者福祉計画について、次の3点を質問します。

- ① ニーズ調査の結果、どんな課題があり、それに対処するか。
- ② 高齢者の孤立や孤独死のないまちづくり施策は。
- ③ 生きがいづくりや社会参加の促進と、高齢者に安全な道路整備について。

A 松尾町長

① ニーズ調査により「グループ活動への参加が少ない」「介護リスクの割合が高い」などの課題が見られた。
町では「通いの場」活動を支援し、22地区300人が介護予防・交流の場として利用している。今後この活動

の継続支援と「いきいき百歳体操」の普及を図り、介護予防・健康づくりを推進する。

- ② 地域の見守りとして、民生委員児童委員や町内会へのお願いのほか、郵便局、生協、サンデーと協定を結んでいる。さらに、ほのぼの見守りネットワークを始めとした町の各種事業、社会福祉協議会の緊急通報装置設置事業への補助など、さまざまな面で高齢者支援を行っている。
- ③ 町では生きがいづくり・社会参加のため、シルバー人材センターや老人クラブ活動へ支援している。今後も社会全体が一体で支え合い、安心して暮らせるまちづくりのため各種事業を推進する。

生活道路整備について、危険な場所には看板設置や道路標示を行い、新たに改良する道路には、歩道の整備や外側線の設置など配慮していく。

Q2 災害時の高齢者の避難対応は

大規模地震等の災害時の、町の避難行動要配慮者名簿および個別避難計画の作成状況と迅速な避難への対応は。

A 松尾町長

名簿の作成にあたり、民生委員児童委員、ケアマネージャーからの情報提供、窓口相談による情報を基に、対象者の身体・介護状況、家族の状況など確認し、家庭訪問調査を行い登録の可否を判断し、随時更新している。

Q3 農家の経営と生活が安定する支援について

個別避難計画は現在、名簿登録者全員分が作成済みで、消防・警察等へ提供している。迅速な全な避難のため、日ごろからの情報を避難計画に反映させ、避難時に関係する地域住民との連携を確認し、体制維持に努める。

- ① 大幅下落の米生産者概算金の影響額は。
- ② 来年の米生産への追加支援等は考えているか。
- ③ 町の主力作物の葉たばこの大規模な廃作にあたり、営農体制維持への支援や、転作を行う農家への支援、継続する農家への支援等の施策はあるか。

A 松尾町長

- ① 1億7900万円の減少と算出している。
- ② 新型コロナウイルスによりコメは在庫過剰になり、国は来年も減産を見込んでいるため、農家のセーフティネットであるナラシ対策や、収入保険の加入促進のほか、主食用米から飼料米等への転作拡大など、農家が意欲を失わないよう関係機関と連携し、支援していく。
- ③ 町では三戸町葉たばこ生産環境改善事業で、土壌消毒や生分解マルチの導入へ支援を行ってきた。今後も支援を継続し、廃作する農家へアンケート調査を行い、経営規模に見合った作物への転換など支援していく。

Q4 杉沢小中学校閉校に伴う児童・地域への対応について

慣れ親しんだ学校からの転校で、子どもたちも保護者も不安が大きいが、4月からの通学や学校での環境適応にどう取り組むか、また杉沢地区の地域づくりへの支援は考えているか。

A 松尾町長

児童生徒の急激な減少が見込まれ、保護者や地域の方への説明会や懇談会での意見、要望を伺った結果、閉校が決まった。説明会では廃校で地域づくりに停滞を招かないよう、地域からの要望等あれば支援していくことなども説明している。

A 慶長教育長

スクールの発着場所を「大平」に変更して運行する。到着後、始業まで40分程度のリラックスタイムがある。

児童の適応のため、統合で増える県からの教員のほか、チューターや学年主任など多くの教員が寄り添い、見守りを行う。また杉沢からの児童を同じクラスにすることや、家庭への連絡を密にし、きめ細やかな支援を考えている。



総務文教常任委員会による杉沢小訪問の様子



久慈 聡 議員



Q1 史跡指定後の城山公園観光計画について

三戸城跡は、国の史跡指定を受ける予定であり、史跡指定は町の観光促進につながるの考えのもと、多くの議員が、早い段階での城山公園の活用について意見提示をしてきた。

しかしながら、指定前段階にあり、具体的な観光振興などの計画が示されていないため、地域振興を進めるリーダーである町長へ、以下4点を質問します。

- ① 史跡指定後の町全体の振興策と、取り組みに係る役場組織体制をどう考えているか。
- ② 史跡指定後の町振興のための、外部団体との協力連携体制をどう考えているか。
- ③ 史跡指定後、城山公園への来客が増えると思うが、公園内、公園までのルートの安全対策

と利便性、道路案内掲示板設置等をどう考えているか。

- ④ 公園で開催される各種イベント等の連携・集客増への取り組みをどう考えるか。

A 松尾町長

① 三戸町を訪れる人に対し、城山公園と南部氏をはじめとする町の歴史、町の商店・特産などのPRが必要であるため、町内の各施設、八戸駅や三戸駅などの町外施設、SNS、南部藩に関わる市町村、県外の町出身者、ふるさと納税された方等への情報提供を予定している。

町を訪れた人には観光アプリを活用した情報提供のほか、スタンプラリーによる町内商店の商品券配布や、三戸城跡モチーフの飲食メニュー、みやげ品開発の補助などを検討している。

② 今後も教育委員会とまちづくり推進課を主としながら、全職員が情報共有を図り、課長会議等で意見収集及び調整連携を図っていく。

③ 指定を受けた際のPRや関連商品の開発など、観光協会や商工会、道の駅指定管理者や産直指定管理者など幅広く連

携を取り、町全体で盛り上げていく体制を整えたい。

- ③ 公園内の景観の面から、支障となる崖部分の木伐採を行い、安全対策でガードレールを設置した。ガードレール下は危険な崖なので注意喚起の表示を行う。

指定後はさまざまな人が訪れることを想定し、改めて危険場所がないか点検し、安全対策を図るとともに、初めての方にわかりやすい案内表示や道路標識の見直しを行う。

- ④ 来年度は、春まつり期間中に国史跡指定の特別イベントを開催するほか、毎年の継続的なイベントも検討している。

このほかにも他のイベントとの連携による集客増や広報PRの強化による集客増を図りたい。

再質問①

史跡の保存のため建築の制限があり、観光面で必要な商業的建物の建設は難しい。この利益が相反する課題への対応や、町の振興を図る組織、人材についてどう考えているか。

A 松尾町長

百数名の町職員が広い分野の

仕事を担当しており、キーとなる担当部署は兼務しながら作るしかないため、まずは教育委員会とまちづくり推進課が連携し、必要に応じて他課も入るプロジェクトチームのような形で進めている。

再質問②

業務を兼務しなければならぬのはわかるが、その中で誰がキーパーソンとなってイニシアチブを取るのか。

A 松尾町長

広く町全体のこととなれば、町長がキーパーソンになる。

再質問③

国史跡指定で、興味のある人は1度は来るが、また来たいと思わせる仕組みがないと2度目は来ないと思うが、仕組み作りは考えているか。

A まちづくり推進課長

お城や歴史に興味のある方やイベントを楽しみに来た方に喜んでもらえる恒例イベントを考えているほか、ガイドについても新たな発見につながるコース設定を考えている。

A 史跡対策室長

新たな発掘調査の結果の発信や、遺構復元工事の公開などでリピーターが得られるのではないかと考えている。

再質問④

史跡指定後にすぐ動くための準備や行動が遅いと感ずるが、町長に焦りはありますか。

A 松尾町長

全く遅滞なく国に対しての仕事をし、準備を進めている。

まとめ

コロナ禍があったにせよ、町の生き残りをかけて、観光をどのようにしていくかに関しては遅いと思っている。三戸町の宝が国の宝になるのだから、早い段階で町全体で事業を行い、町民に笑顔が戻るよう町長には行動していただきたい。





映像配信

千葉 有子 議員



Q1 町の特産品である
ジョミの支援について

三戸地方はジョミ(ガマズミ)の生産地である。「地域の宝」と称賛される「ジョミ」への町の生産支援について、2点質問します。

- ① 町と弘前大学の連携協定事項のひとつに、「地域産業に関すること」がある。ジョミ生産の継続、特産化の強化に向け、関係課職員や町長の関与が大切と考えるが、町長はどう考えているか。
- ② 老木化や生産者減少による収穫量の減少、加工環境や販売促進など、自助努力や協力体制でも困難があり、ジョミ消費への不安の声が聞かれるため、今後も持続可能な産物となるよう、関係機関や農家などとの話し合いの場を設けて

Q. ジョミ生産継続のため農家などと話し合いの場を設けてはどうか？

A. 今後も継続的な話し合いの場を設ける。

はどうか。

A 松尾町長

① ガマズミは平成7年、県立保健大学、株式会社小野寺醸造元、財団法人21あおもり産業総合支援センター等の関係機関でガマズミ活用研究会が結成され、成分分析や新商品の開発、PRに取り組んできた。

町も地域産業のひとつになる可能性があることから、県開催のフェアへの出品などで知名度向上のため支援している。

② 今後も担当課と関係機関の連携、情報共有のほか、弘前大学との連携を深め、地場産品として大切にしたい。

おとしの12月に生産組合、加工業者をはじめ、弘前大学教授、サンノワ、役場職員が参加する会議を開催し、収穫量の減少、加工環境の継承、販売経路の確保等の課題

等話し合われた。今後も継続的な話し合いの場を設け、弘前大学からの意見などを参考に、対応を協議したい。

再質問①

弘前大学との連携協定の内容と、協定に至る経緯は。また、おとし以降、関係者との協議はなかったのか。

A やわらかさんのへ交流室長

令和3年4月に地球温暖化を背景とした中長期的な気候変動が及ぼす三戸町の農業に与える影響の考察について弘前大学と受託契約を結んだことがきっかけとなり、町が抱える課題解決を目的に産業振興、健康、教育など8つの項目で同年7月に協定を締結した。

A 農林課長

その後残念ながら話し合いの場を持っていない。

再質問②

11月に行われたガマズミの収穫体験に、弘前大学の教授と学生が来町したが、町側からの参加はあったか。

A 農林課長

農林課に11月に来るという話があったが、具体的にいつ来るとかの連絡がなく、来たことを後から聞いた。今後はメール等で確認して進めたい。

再質問③

ガマズミを守るための、生産者の皆さんの悩みを聞く場、話し合いの場、知恵の結集のための現実的な取り組みや場所の設定についてどう考えているか。

A 農林課長

農業レベルアップ事業はガマズミに限らず、広い農作物に対応し、また機械導入だけでなく、研修会の講師招聘にも補助して

いるので農林課へ相談してほしい。

再質問④

ガマズミという特産物の持続をミッションとした、地域おこし協力隊の活用も打開策のひとつだと思うがどうか。

A まちづくり推進課長

今後ジョミ生産支援を地域おこし協力隊のミッションとするかどうかは、担当課が関係機関と協議を深めたうえで必要に応じ提案されるが、ミッションに従事することで地域への定住・定着が図らせることを期待したい。



道の駅でも人気の高いガマズミ加工品



藤原 文雄 議員



Q1 町内道路の維持管理について

道路は、通勤・通学・通院など、町民の生活基盤となる重要なインフラであり、町道のほか国道・県道を含め、常に安全でなければなりません。町民の安全な通行の確保と、交通便利性の観点から、道路網の維持管理について3点質問します。

- ① 定期点検はどのように行われているか
 - ② 町民からの要望に対する優先順位の考え方はあるか
 - ③ 道路の維持管理についての現状と課題は
- A** 松尾町長
- ① 国道4号は青森下線国道事務所員および委託業者が、国道104号と県道は県の道路

Q・町民からの要望への優先順位の考え方は？

A・緊急性や規模を考慮し対応している。

監視員が、それぞれ週1回程度点検している。町が管理する道路は簡易水道施設の巡回や工事現場立会いなどの通常業務の際に随時点検している。

再質問①

国道、県道、町道で管理する立場が違うが、それぞれの道路の接続部分を一緒に点検するとは行っているか。

A 建設課長

住民からの問い合わせ等あった場合、町から県・国に相談し、一緒に対応するケースもあろう。ケースバイケースで対応していく。

再質問②

道路の舗装や橋梁の耐震など、特殊なところもあると思うが、専門知識を持った人と一緒に点検しているか。

A 建設課長

現状では職員が行っている。専門的知識が必要な場合はその都度お願いしており、日常的に専門の方を入れることはしていない。

再質問③

広報11月号で、町民に対し、道路沿いの樹木や側溝の管理、点検をお願いする記事が掲載された。

A 建設課長

私有地の場合、所有者が責任を持ち、危険な場合は行政が対応することもあるのはわかるが、実際見ると、大きくなりすぎた支障木の場合、切ろうと思っても手段が見つからないため、「問題があったらまずご連絡ください」といったお願いの方が早いのではないかと。

A 建設課長

記事の目的は、自分の土地の樹木、自分の財産は自分で管理するのが基本だということを知ってもらうことがまず一つ。そして、その作業に関しては自分でできる範囲であれば自分でやるのが基本ということ。

さらに、どうしても自分でできない場合は、町が業者を紹介するなど対応するので、お困り

の際は建設課に連絡いただきたい。

再質問④

年に1〜2度、町道で車両の物損事故が起き、町が損害賠償を行った事例が発生する。事故を未然に防ぐため、他の自治体では住民が写真を撮って役所に送るアプリを使用したり、郵便局と提携して情報収集したりという例もあるが、当町でもそういった新しい取り組みができないか。

A 建設課長

アプリの使用や郵便局との提携により、それがその後どのように機能しているのか。実際に効果があるのかなど調べ、さまざまな取り組みを今後検討していきたい。



建設農林常任委員会による町道の調査の様子



佐々木和志 議員



Q1 少子化対策について

本町の年間出生数は年々減少傾向にあり、現在行っている少子化対策では効果が見出せない状況にあると考える。
新たな事業や拡充に取り組むべきといった考えから2点について答弁を求めます。

- ① 現在行っている第3子以降への助成事業の拡充と合わせ、第2子への助成も検討してはどうか。
- ② 子育て世代の移住を促すための新たな取り組みや、既存事業の拡充に取り組むべきではないか。

A 松尾町長

子育てサポート祝金事業により、毎年4人減っていく見込みであった出生数が、0・6人の減まで改善し、事業効果が得られている。
現行制度の拡充や第2子への助成は、来年度までの5年間の実績を総括・検証し、適切に判断する。

Q. 現在の第3子以降の支援に合わせ、第2子への助成も検討しては？

A. これまでの実績を検証し、適切に判断する。

再質問①

人口減少の傾向は変わっていないため、これまでの支援に給食費や修学旅行費など加えて厚みを出す、第2子への出産祝い金支給など、第2子から出生数を増やす取り組みをしてもいいのではないかと。

A 松尾町長

一定期間行った事業の効果の検証はどうしても必要になる。何をすれば少子化に効果的か、答えが見出しにくい中で色々と取り組んでいるため、他の自治体の取り組みも参考に、町の子育て支援事業に生かしたい。

再質問②

町内の子どもを増やすには、子育て世代を増やさなければならぬ。近隣町村では子育て世代を意識した宅地分譲を展開しているが、これを含め新たな事

業展開は考えているか。

A 総務課長

現在、町営住宅建設を計画しているが、用地取得や建設などある程度の年数がかかる見込みで完成年次は決まっていない。

一般的な町営住宅で事業を進めているが、若者世代、子育て世代についても検討している。

A 松尾町長

今年度のインフルエンザワクチンの供給量が、昨年度の7〜8割にとどまり、限られたワクチンが無駄にすることなく、希望する方が公平に接種できることが重要であることから、受験生の優先接種は検討していないが、重症化リスクの高い方も含め、早めの予約を周知したい。

再質問①

町が子育て環境の充実を図っているのであれば、その事業の一環となると思うが、来年度以降受験生の枠を設け、優先接種する考えはないか。

A 健康推進課長

近隣市町村等の動向のほか、医学的な観点、公衆衛生上の観点などから、受験生に対する優先接種の必要性について、専門的な知見を有する方の意見も聞き、判断したい。

Q2 中高生の受験生へのインフルエンザ予防ワクチンの優先接種について

インフルエンザの流行時期を迎え、受験生や保護者は大きな不安を抱えていると考える。インフルエンザの予防ワクチンが不足している中にあっても、今後受験を控えた生徒に対し、優先的に接種できるような取り組みはできないか。





澤田 道憲 議員



Q1 既存水路の改良について

平成24年の斗内字寺牛地区の「第1寺牛沢砂防ダム」完成後、大雨のたびにダムの水が水経路からあふれ、付近の畑や家屋等へ流入し、住民が困惑していることから以下について質問します。

- ①平成30年の水路改良設計委託のプロセスは。
 - ②平成25年9月の要望と設計図面との違いは何か。
 - ③住民の不安を取り除く、暫定的なあれ、具体的な取り組みはないか。
- A** 松尾町長
- ①平成25年9月の大雨による既存水路からの水が民有地に流入する被害を受け、平成30年度に流量計算を含む300

Q・住民の不安を取り除く具体的な取り組みは？
A・被害の場所や住民の状況を確認し、応急措置を含め改善策を考える。

メートルの測量を行い、そのうち50メートルの水路改良設計を委託した。

②当初はダムからの流水が水路からあふれ、小屋に入り込むため、水路を補修してほしいという要望だったが、水路上に建物があり、工事が容易ではなかったため、別ルートで新設したものの。

③この水路は農業用水路として活用されているものであり、ダムからの流末までの流れを考慮し、一時的に補修する必要があるので、被害の場所や住民からの状況を確認し、応急措置を含め効果的な改善策を考える。

A 建設課長

平成25年の要望から9年経ち、対応策を講ずることなく現在に至っているが、年度内に住民の安心につながる具体策を示し、話し合いを持つ考えはないか。

暫定的な対策等、どういったものがあるのか専門機関や関係する方からの意見を聞いたり、要望を出された方、被害にあつた方の今後の要望などを聞いたといった機会を設けたいと考えている。

再質問②

住民からの要望や陳情案件について、私たち議員は町民から質問を受けることが多い。町民

に説明できるよ、現在進行形の案件も含めて報告してもらいたいけどどう考えているか。

A 建設課長

建設課に関する陳情、要望さ

Q2 三戸―二戸間の路線バス運行計画について

現在廃止状態の三戸―二戸間の路線バスは、町民の生活を支える重要な社会資本であり、公共交通機関は地域住民の経済活動や通勤、通学、通院などのほか、観光振興や交流人口の拡大にも効果が大きいと考えられる。バス事業者へ路線バス運行の働きかけをする考えはないか。

A 松尾町長

三戸―二戸間の路線バスは、旧南部バスが三戸駅から一戸まで1日3往復運行していたもので、利用者減等により、平成18年に青森県側が、20年に岩手県側が廃止になった。

この路線の路線バスについて、

町内のバス運行の見直しが可能か、利用に不便はないかなどの確認を行ったうえで、二戸市まで利用している方の状況把握やバス事業者、関係自治体の意向など調査したい。

再質問①

電車を利用する通院者は駅の階段の上り下りが、通学者は駅から高校まで遠く、歩くのが辛いという。バスの運行で逆に三戸高校に入学する生徒も期待され、さらには三戸城跡の国史跡指定で歴史ファンや観光客、11ぴきのねこファンの来町も期待できるため、国県の制度等利用した、発展的な取り組みができないか。

A 総務課長

この路線は年間324万円ほどの赤字を補填する国・県の補助が平成16年になくなり、それを関係市町村で距離により案分し、負担して維持した経緯がある。しかし、利用者が少ないため、バス事業者からの話を受け、町の意向、関係市町村の意見を伺い、廃止となったものである。

第499回 三戸町議会定例会 (令和3年12月議会) 議決結果一覧

議案番号	件名	議決月日	議決結果 (議長をのぞく)
報告 第8号	専決処分した事項の報告及びその承認を求めることについて (令和3年度三戸町一般会計補正予算(第5号)) 【概要】米価下落緊急支援対策給付金事業のため、歳入歳出ともに1887万円増額するもの。	12月2日	原案承認 (賛成13・反対0)
議員提案 第2号	議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】議員の期末手当の額を0.05月分引き下げるもの。	11月29日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第59号	三戸町特別職の職員の給料等に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】県人事委員会勧告に伴い、特別職職員の期末手当の額を0.05月分引き下げるもの。	11月29日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第60号	三戸町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】県人事委員会勧告に伴い、町職員の期末手当の額を0.05月分引き下げるもの。	11月29日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第61号	三戸町過疎地域における固定資産税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】国の法施行に伴い、条例名の「過疎地域」を「三戸町産業振興促進区域」へ変更し、特別措置を受ける業種の拡充や設備取得価額要件の引下げ等行うもの。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第62号	三戸町過疎地域自立促進特別事業基金条例の一部を改正する条例案 【概要】国の法施行に伴う、条例名の「自立促進」の「持続的発展」への変更など。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第63号	三戸町奨学金貸付条例の一部を改正する条例案 【概要】貸付対象者要件の緩和、貸与月額の増額、返還条件の緩和等行うもの。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第64号	佐藤義典奨学金貸付条例の一部を改正する条例案 【概要】大学等入学時特別奨学金の大幅な増額、貸与月額の増額、返還条件の緩和等行うもの。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第65号	三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案 【概要】健康保険法施行令の一部改正に伴い、出産育児一時金とこれに加算する産科医療補償制度掛金を引き上げるもの。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第66号	町道路線の変更について 【概要】町道下目時1号線の起点を変更するため、法に基づき議会の議決を求めるもの。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第67号	三戸町過疎地域持続的発展計画を定めることについて 【概要】令和3年度から7年度までの5年間を計画期間とした町の過疎計画を定めるもの。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第68号	令和3年度三戸町一般会計補正予算(第6号) 【概要】歳入歳出ともに1億9549万円の増額。主な歳入は地方交付税1億6244万円など。歳出は三戸中央病院操出金、新型コロナウイルスワクチン追加接種事業費1億4986万円など。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第69号	令和3年度三戸町営簡易水道事業特別会計補正予算(第3号) 【概要】一般会計操出金による歳入と、簡易水道管理費の増額による歳出、各66万円の増額	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第70号	令和3年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第2号) 【概要】歳入歳出ともに1909万円の増額。主な歳入は県支出金1800万円。歳出は保険給付費1800万円。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第71号	令和3年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院特別会計補正予算(第1号) 【概要】医業収益や一般会計操出金等の収益的収入2億4702万円の増額、病院経費、職員給与などの収益的支出1億751万円の減額。企業債等の資本的収入1億3438万円の減額、医療機器の購入等の資本的支出4063万円の減額。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第72号	令和3年度三戸町一般会計補正予算(第7号) 【概要】国の子育て世帯臨時特別給付金事業のため、歳入歳出ともに4095万円増額するもの。	12月2日	原案可決 (賛成13・反対0)

議案審議

元地域おこし協力隊員の 起業に100万円補助

主な議案と質疑

■議案第66号

町道路路線の変更について

**なぜこのタイミングで
変更となったのか？**

Q久慈 聡議員

道路ができてから今回の議案になるまでの経緯は？

A建設課長

当該路線の起点は、櫛引上名久井三戸線整備工事の在府小路工区が平成27年に完了しており、本来その時に変更をすべきであったが、事務引継ぎ等不十分で実施されなかったもの。今後は確認体制を構築し、再発防止に取り組む。

■議案第68号

令和3年度三戸町一般会計補正予算（第6号）

**地域おこし協力隊を
用いて初めての起業・
定住モデルとなるか？**

Q栗谷川 柳子議員

この事業は地域おこし協力隊が卒業し、それまで取り組んできたテーマを膨らませた事業を起こすものなのか。また当初が協力隊を採用して初めての起業・定住モデルとなるのか。

Aまちづくり推進課長

この事業は、協力隊の任期終了後、町の活性化のため、任期終了前後一年以内に町内で起業する経費に補助するもので、全額が国から地方交付税として戻るもの。特に協力

隊のミッションを引き継ぐものではないが、初めてのケースである。

■議案第71号

令和3年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計補正予算（第1号）

**ナースコールシステムの
延期に問題はないか？**

Q久慈 聡議員

ナースコールシステム整備を延期することだが、整備は来期になるのか、また現状は問題ないのか。

A病院事務長

現状は、引き続き使用に耐えることを、現場や使用している職員と確認し、先送りを決めたものである。来期に整備するかは決定していないが、現在PHSと連携しているものを、スマホと連携するものにしたと考えており、他の使用例も参考に来期以降に導入したい。

第500回 三戸町議会臨時会

12月24日、第500回三戸町議会臨時会が開催されました。案件は、子育て世帯への臨時特別給付金事業のための補正予算で、町内の児童手当支給対象者へ5万円を給付するほか、住民税非課税世帯等へ1世帯当たり10万円を給付するため、一般会計既決予算額に、歳入歳出ともに2億3,426万円増額されました。

議案番号	件名	議決の結果（議長をのぞく）
議案第73号	令和3年度三戸町一般会計補正予算（第8号）	原案可決（賛13、反対0）

請願陳情

審査結果

陳情第4号

加齢性難聴者の補聴器購入への公的補助制度創設を求める陳情。

【陳情の要旨】

補聴器の普及により、加齢性難聴者が心身ともに健やかに過ごすことができれば、うつや認知症の予防、ひいては健康寿命の延伸、医療費の抑制につながるかと考えられることから、三戸町独自の補聴器購入への公的補助制度創設を決議してほしい。

【民生商工常任委員会の意見】

町内に、法律で障がい者に規定されない加齢性難聴者がどの程度いるのか、またそのような要望が現在あるのか調査しなければ、結論を出すことができない。

【審査結果】 継続審査

議員活動レポート



Facebook
でも発信中!!

総務文教常任委員会

山田 将之・千葉 有子
小笠原君男・越後 貞男
佐々木和志

【調査事項】 学校施設の管理運営状況について

10月20日、町内小中学校の管理運営状況について、現地を視察し、調査しました。



【主な調査結果および意見等】

各学校とも経営方針により、概ね良好に運営されている。

GIGAスクール構想の推進に当たっては、教員自身がタブレット端末をしっかりと活用できるように研修機会の充実強化に努めてほしい。

児童生徒の学習、安全対策に直接関わる施設の整備や補修については、早急に対応を検討してほしい。

民生商工常任委員会

藤原 文雄・栗谷川 柳子
柳 平 圭太・乗上 健夫
竹原 義人

【調査事項】

三戸町観光協会の運営状況について 健康推進課が所管する事務について

10月28日、町観光協会の運営状況と、役場健康推進課が所管する事務について、説明徴取、意見交換を中心に調査しました。

【主な調査結果および意見等】

三戸町観光協会

三戸城跡の国史跡指定により、町外からの観光客の増加が見込まれる。観光協会・道の駅スタッフともに資質の向上を図り、関係団体と連携し、このチャンスにしっかりと対応してほしい。

健康推進課

「健康づくり」だけでも事業は多岐にわたっており、ひと昔前に比べ住民が受けるサービスも増えている。今後も目まぐるしく変わる時代、状況に的確に対応できるような事業を進めてほしい。



建設農林常任委員会

久慈 聡・番屋 博光
和田 誠・澤田 道憲

【調査事項】

農作物の生育状況および町道等の管理運営状況について

9月22日と10月13日の2日間、農作物の生育状況と、陳情や要望に關わる町道等について、現地に赴き調査しました。

【主な調査結果および意見等】

- ・リンゴは春の凍霜害が心配されたが、大きな影響はない。中心花がつかず小ぶりであるが、平年並みの収穫量が見込まれ良好。
- ・水稲は夏の高温やカメムシの大量発生による品質低下がみられたため、防除の周知徹底を。米価が大幅に下落したため、支援の検討を。
- ・陳情採択および要望のあった3か所については、現地調査のうえ、優先度を評価した。



三戸町活性化 対策特別委員会 視察研修報告

視察事項

農産物加工施設の運営状況等について

11月4日、当町において新たに加工施設を建設する際の参考とするため、最新の農産物加工施設を有する弘前シードル工房 Kimori（弘前市）および、ふるさとセンター（板柳町）を視察しました。

主な視察結果及び意見等

○弘前市シードル工房 Kimori

株式会社百姓堂本舗代表取締役の高橋哲史氏が、2008年の降雹被害を期に構想し、2014年に始動したシードル工房で、土地は市から借り、建物・設備は独自調達。11月下旬〜12月をピークに、年間2万本のシードルを製造しており、オリジナル商品の他、りんご生産者からの小規模ロットの製造委託にも対応している。

市場で飽和状態のりんごジュースの他に、弘前に新たに1つの商品群を構成したことで、賞味期限がなく長期間味の変化を楽しめるという有利な特性を持つこと、国内でのシードルの市場規模はまだまだ小さいことが有利である。「飽和状態のりんごジュースの他に新しい製品を作りたい、若者も楽しめる物でありたい、生産者ではない人もりんご産業の現状を知るきっかけになる場所を作りたい、楽しく集える場所になりたい」という思い、成り立ちに感銘を受けた。

○板柳町 ふるさとセンター

資料展示室、体験工房、温泉大浴場、レストラン、喫茶店、サーキットエリア等の遊び場、観光りんご園、コテージ、バーベキュー場、産直などが1か所に集約されている。リゾート地ではないのにコテージがあるというのは

違和感があったが、利用目的の多くは帰省客とのことであり、家族で1棟に泊まることで、利用がある時だけ光熱費と清掃要員の人件費のみが発生するため効率が良い。りんご生産者が製造委託できるりんごジュース加工センターは、高齢化、品質管理、品質保持の上でも役立つと思った。りんごジュースの製造に特化した施設であったが、動線に疑問がある部分があったので、設計段階の打ち合わせに重要性を感じた。製品の品質について、アスコルビン酸を添加しているのに褐変が見られたために導入後の試作に時間を要したことから、設備選定や、導入後の設備のクセを掴むのが難しいことだと分かった。（栗谷川 柳子）



一部事務組合議会議員の紹介

消防やごみ処理など、自治体単独ではなく、周辺市町村が共同で事務処理を行う一部事務組合にも議会があります。組合議会の議員は、組合を構成する自治体の議員の中から推薦されており、当町からは議員9人が下の3つの議会に所属し、議会に出席しています。

三戸地区環境整備事務組合

三戸、田子、南部の3町が、クリーンセンター（ごみ処理）、衛生センター（し尿処理）、葬祭場を共同で運営する事務組合。

【当町の所属議員】

和田 誠、山田 将之
栗谷川柳子、藤原 文雄
千葉 有子、久慈 聡

田子高原広域事務組合

三戸、五戸、田子、南部、新郷の4町1村で構成され、共同で管理する牧野における放牧事業、乾草ロールの販売等を行う事務組合。

【当町の所属議員】

小笠原君男
番屋 博光

八戸地域広域 市町村圏事務組合

八戸市、三戸郡内6町村、おいらせ町により構成され、消防・救急業務と介護認定審査会の運営を行う事務組合。

【当町の所属議員】

越後貞男

議員と直接お話ししませんか？

－ 議員と町民の交流会を開催します －

三戸町のこと、議会のことを、議員と町民が同じテーブルで話し合う「議員と町民の交流会」を2年ぶりに開催します。テーマは祝！国史跡内定「城跡のあるまちづくり」を予定しております。ぜひ、皆さんの熱い思いを議員へお聞かせください。

日時：令和4年2月26日(土) 17時30分から19時

場所：ジョイ・ワーク三戸 ※新型コロナの状況により中止する場合があります。

【お申込み、問い合わせ先】 三戸町議会事務局 20-1159 (直通)



前回の交流会のようす

第502回三戸町議会定例会（令和4年3月議会）予定

3月4日(金)	午前10時	開会、町長による議案提案理由の説明
3月7日(月)	—	議案熟考のため休会
3月8日(火)	午前10時	一般質問
3月9日(水)	午前10時	一般質問（予備日）、議案審議・採決
3月10日(木)	午前10時	予算特別委員会
3月11日(金)	午前10時	予算特別委員会、本会議、閉会

編集後記



新しい年を迎えましたが、まだまだ新型コロナウイルス感染症による日常生活への影響は大きく、対策に努力している私たちも、不安をぬぐいきれません。

しかしながら、こういう時だからこそ、町民の皆さんと一緒に頑張って解決しなければならぬと強く認識しております。

3月定例議会では、新年度（令和4年度）の予算を審議します。ぜひ傍聴していただき、事業計画や予算の使い道、使い方について、ご意見をお聞かせください。みなさんのご意見を、まちづくりに反映させます。私たち議員は3月で任期の折り返しとなります。今後も町活性化のため多種多様な課題に関して、議員一丸となって取り組みます。

みなさん、一緒になって幸せなまちづくりに頑張りましょう。

（久慈 聡）

三戸町議会広報編集委員会
委員長 山田 将之
副委員長 久慈 聡
委員 栗谷川 柳子
藤原 文雄
佐々木 和志
竹原 義人